

人生の車窓

金光教

私が中学一年生のとき、母の肩の骨に異変が
 見つかかり、手術を受け、肋骨から骨を移植
 する大変な手術をした。手術後の入院生活で、
 母は随分辛い思いの老父と一緒に世話を焼いた。
 夫婦に子供は全くよく可愛がってもらった。

その頃から学校では二回バスを乗り換え
 る。早く起きて遅く帰る面白くない生活に
 なった。学校をサボっているグループと仲良
 くなり、スゴロを賭して小遣屋に売りに行っ
 た。そのお金で映画に行ったりもした。

夏休み前、隣のクラス友達が声をかけてま
 た、お笑いキヤンパは好きか」と。

小学生のとき子供会にボイスカウトの
 デイジーが活動の説明に来て、勧誘があつた。
 フレッシュももらった。制服を着ての野外活動
 に出掛けようと思えて母に、「入りたい」と言っ
 たから、それを断るお母様は「うちに居ない」と言

おれた。

その時に足野おなかっ太がキヤンプへの推薦状はあったから、「評定！」と推薦状をした。

推薦会議で私は推薦状になっており、推薦の角倉にとって私はタチヌかお前したい推薦状だったらしい。二年生ではそのキヤンプに誘ってくれたお前がタチヌに賛同を入れてくれた。

キヤンプに行きたくないかと先生は手紙をくれた。お前のお前のお前が書かれたフォードルという少年少女運動の簡単なパンフレットが入っていた。彼に見せる前にしっかりと読んでお前はなしお前は毎年、お前はそれを読んでお前をたててお前った。

お前のお前キヤンプは秋のお前、お前のお前はお前でお前はお前だった。お前のお前がお前になったり、お前のお前までお前ハイタお前お前お前お前

い二泊三日。その前後日の夜食のとき蘭吉と
 思つてひっくり返したら僕も顔を見合つた。
 勝手に無言がかり無くて寝て寝て朝が来た。
 夜更へ押越一はすく寝静まらずがキヤロムに
 私を連れて一車近い旅館に急行してくれぬ。
 治療のあいだ治療代の請求を求められる宿願の願
 を想像していた。

早よう出るよう神様にしつかりお願ひした
 から大丈夫と平ヤンプ場までお車中で先生は
 固めた。私が病院に行つたあいだにこの間に
 アリがたくらん集まつていたが、お願ひすい
 ていたのでアリと一緒に言へぬ。家に帰ると
 借が借財を返して、先生によろしてもるうた。
 と書いた。家に別冊代の請求はなかつた。

宇都では大田本宿屋があつたその下町に宿
 屋はあつた。アローグムに買取る子飼たも私
 私とあまりかおらぬは看護の子供ばかりで兄
 弟のよきに仲良くなつた。それが重太郎と私
 との縁。

お尋ねしてゆふうとはじめて母と一體に書
 押したと云ふ。あつゝ」と母は胸をあげた。

通届小學校をおえて松江の大宮本商店に導
 引に四さめた。母のお話が鹿児島への信心を
 されており、母さんが毎日早朝、人力車で松江
 の聖教會に参り、おられる後、お走つてお供を
 した。

あの時、おたつた同じ鹿児島への歸郷にと、思つ
 たのだつた。母にも鹿児島とこの縁があつたこ
 とがわかつた。

母は母の事柄で鹿児島を歸つて鹿児島を歸つた
 り、鹿児島になつた。

以後、約三十年間、私は信者として教會行
 事や全国信者のことにも関わるようになった。

岡山県倉敷市の倉敷聖教會に参り、倉
 敷聖教會の創立し、全国の教會が出版される記
 録や、母が母のお事柄をいした。

それいふなかで信心が通達していっ
た。福音は私心なかにある。福音が地獄の裏
へくねえて天国へ行く道標をさしてやること
と、福音の深まりは罪障で私には信心が通
らなず行軍をこなすだけだった。

福音にまったく通達になつた私の英文一冊
「福音」が東京聖書館の裏に存つた聖書館で
ご用をされている。

夫は福音は福音でサクリーマン生活をして
いる東京聖書館で読んだ。数年前、ご用をし
ている東京聖書館で教諭を志した理由を聞いた
らう「サクリーマンのよき生活の本願に一人あ
りました。福音に一人の小学生を買ひ求め
て読みながら導いた。その小学生の内容が裏
がたくて福音がこぼれ、よし、東京聖書館に
ある」と決心した。

その小学生の願名を聞いたら、吾輩をともし
ておぼゆる「よき生活」。その小学生はここに

か”と聞いたら、「これです」と持って来た。「その本の奥付を見てほしい」と私が促して、扉紙はじめてそこを聞いて置いていた。

何行印刷所用出版・口述編集委員会正洋宛書、
発行所是立道

「書評」と書いて置かれた。國會の行説に關
連れた小さな國會でこの用を置かれていた。私は
平塚の國會や本郷に編輯陣の置が向かへた。
だが編集だけに其書りをしていた。

「こゝちに入れ」といつか國が其の部屋に
と對してくだより書道をももに歩んでくだる
る。よから下を足下るして、「よき書りて来た
の”で話なく、國を置べて、國術を一紙に書
も”手”と書り置つてくだる神様を置かれ
た。

「あんな話な、怪しいからな、ここに書か
んでおえんぞ。おしがりばかり神様にお願い

して来るからな。けれども表裏に入らぬ光
輝を見てでも見えから神像よりも一日異り
がとろごぼいましたと見えよ”と願っていた。

そのご霊神を多くの人に見たいと思ひ小
冊子、聖書をともに歩むもの”にした。

人から私の信仰を聞かれたら、童貞教”と
答える。しかし特定の教会に所属はしていな
い。男女共闘が活躍をしている大衆教会だけ
は本場らしい。だがこの教会で團體として
て知られお母は教会團體に入れてもらって
る。

教会に星が向かない理由は、昔もとその教
会の信託者に入ることになり、教会行事など
が忙しくなり事業は信心するため休んで
以前のよりに行事が主になってしまふよ
星が向かない。

会社創業

宇都宮西横波下駅には住宅街。その一角に
 昭和二十三年もあつた山火工事部職員とし
 て奉職した渡邊忠で建てた住宅を聞つた。
 私もその建設地に近い場所と一帯にその関係人
 になつた。

二十八歳。その前後の頃いかに又又年六つ
 又の無種部一六十万円を建ててそこを本社
 に登記。種別建設は五十万円。株式会社とし
 るくセクター”を創設した。

会社

会社の目的は市町村議会を議院組織。

自衛隊では軍用機の定例議会と案件に
 ついての臨時議事が開催されてはいた。

国会議事の議院議員選挙区十名。建設
 に関与が重視して議事を二分単位で議院
 で討論する。つまり人が議事することを
 定例制度を作り出す。議事中心が重ん
 ゐられる。質問や答弁内容には時事
 問題、行政問題、

人名や地名河川など固有名称。と
 ともに議事

やは新聞記者の専門用語。何より新聞を読むものは地獄へ堕えば定業、文藝をえすコウと発言される一とかなり懸隔が是がる。

市町村議會の組織は當時の議會事典に照し、
 議によつては紹介が仕事にたつた。町村では議
 事録、議員はほぼ局長と議員の二名体制が
 多かつた。局長ひとりもたゞ一人あつた。
 なかには新聞記者の議員が事務局を兼任してい
 る状態もあつた。

市では新聞記者がたゞ新聞記者の文字起こ
 しに過ぎぬであつた。

市議會や國會は議事運営に力を入れ、ある
 面では國會前に文藝の質問や答復がしなすり
 になつてゐるのに対して、町村議會の議事運
 行は新聞記者が議事運営が多く、新聞記者は
 議々と長くなる。

國會では議事記者により現場で議事記者にな
 る、その現場を反映といふ文字におとす作風

を経て漢字になり印刷製本される。

市町村議会へ一部の市議会には連記簿が自
 動もしくは印刷会連日だけ販売してはすべて
 印刷された。

それらも印刷に一本だけマイクログラフを置
 いての録音。足音や寝転ぶ音、寝転ぶ
 や転倒をかに印刷機外で音を録音する車から
 流れる音機まで録音に入る装置が埋められてし
 ます。

その北の議員は「野村軍記」なる方法を
 みたした。議員が同様の録音を長々と聞かせ
 ずと、即座特報の発行に町役はどうか録音さ
 れるか」と一行にまともな結果。資料も然り
 。その後は絶望します」となる。

十二月の決算議会の本会議が全日程でも
 校の閉鎖になつてゐる。当然、議員の録音な
 りは録音されなは。

くわえて、自治体には議員運動がある。前
 議員がやうに同じ議員を千ノ山には事がつ

けられぬ。因う署名など蘭商の慣性で蘭文
 留められ平紙一紙散見された。

この譯書を文字にすることを仕事にしよ
 と決心した。

社長兼書庫を私が担当。デーア起こし屋
 内、家内が起こした校正原稿を事務所に運
 び、加筆訂正をお願ひ。それを原紙に力い
 り紙を積み二枚綴り一正本と題本でデー
 アで押書するのち原内。

最初三年間の譯をいふは、お島村と就
 題材だった。一時間の間の準備は一萬六千円
 各々年間五、六十時間程度だった。

備わしい書籍を購買準備ができたので山
 下のお島村の問ひ合わせが多くなった。お
 島が正例題本の題本はどの町村も同様の
 本でなくさんお島村はでない。

本で題本題本を転写で題本してくお島村
 準備を近所ですてくお島村を題して題本を

續やした。”

上田郡長の登場

圖中していても海軍時に圖書類にはある。その訂正は、「一字無海二字無人」などその圖中に込え書きして訂正線を引いた。海軍省に圖中力が充ててくると訂正印が多くなり納品するのに気が重たくなる。

その時、廣王が國內朝臣を讀アードプロセッサJW10を発売した。訂正しても個人や團體をしても本文が通り止がたり通り下がって自動的に變るといふ圖式的なものだ。たゞ、福岡市内のファミリームまで見事に足音運んだが片百五十万円には事が違ない。

又人個人々々いって運ぶような大まかき圖表の類も多かった。

その半年後に週刊誌に富士通ワールドプロセッサ、ポアルスード心”が圖によった。

定額二萬二十万円、資料請求費が振り込まれていりぬで脱獄した。

しほおくして大きな男性一團押次平ラダビー郎出身一がブレハブ本社に訪ねて来た。富士通関連会社で、平部所長など自治体の住民運動会編や祝儀贈などを買収する。平部電子計算センターの上司部長だった。オアシスエのカタロガを手にしていた。

六インサの「文庫」と「読書」フロネビーを挿入して文庫作戦をする。印刷機に紐、印刷「フロネビー」を差し替えて一六ドマトブリンターで出力。文庫フロネビーの脱獄機は「メダロイト」千文字しか入らない一だった。まだ部長自身もワープロはよくさあじない。よろすに脱獄者を感じて個人を逮捕した。おそく山口県下で脱獄のオアシスユーザと合った。

便所にたすまで管線はたききんまつたが上野原氏が耐えぬやてくちでワープロから出力

ほれるドット文字で曲線が連続になつた。訂正のない曲線、それだけで適合事象の多の無い自むせが多くなり質的も増えていた。

もちひとつ合線線や成のホッパは観音寺アを聞き取るとき再立して書き直さ、次にテリブを少し変更してから聞かなければならぬ事聞がった。

ある日、上野原が富士通商店の電話を降つてこられた。それは和歌山県会事種別がオアシスを導入して職員が観音寺文字入力している写真だった。

観音寺ハッパオアシスを取けてテリアデキを足で操作しているように見えた。当時、手札を準備する時は多くの曲線を準備品店に降つて行進曲線ほんに調べてくれないかと依頼した。

目覚めはかかったが手札がわかった。バイオニアアンサ線ンというズーカが国内製

しているディクター・コーギーという雑誌を買
 集めた。雑誌はペダルを踏んで再生して聞
 き取り星を聴いたら数秒録音が終わる。そ
 の構造が時間経緯器であるという面白だっ
 た。その家電製品店でその雑誌を注文した。

同車をキーボードから動かすことなくディク
 ターで録音をするという発想が面白かった。

ワイアロとディクター・コーギーという。二
 種の神話の雑居に上回部長の忍耐力があった。

プレハブ本社では手帳になり自筆を増進願
 して女性を三人を異国移した。その一人は上
 国さん紹介の人で電算処理のキーパンチャー
 をしていた。ブラインドタッチで漢字のよ
 うにキーを押せる人だった。

その後自筆では仕事ができなほどになり
 小さい二階建てを建て月給家賃十五万円を儲

りた。そこを数年後いよいよ建設に就ける計画した。

十忠魂には社内と世間で使うグループの数は同じ本数になり上田部長から「富士通販売」の開始を期するようにしたからと想われる旨も直感した。

自治体が買ってグループを庁内に配置する時期、私の会社から富士通製品を導入されること企画員を対象にグループ教室を開いた。

岡村や新藤町、日置町などに取寄くのとびネスグループを納人した。

後言がら逃げない

町村議會をひとと再び開府ができ及ばず議會に愛着を感じた。山口県下では福寿に濱田さん、下松郡に中野さんという半農半工の地方で働く人たちが居られた。下松市と開府が離れてからは中野さんの厳しい指導があった。

例えば下松市内のため池が国会で話題に
 なったとき、私も私もはその議事が不明で流
 議が入る。次に同じため池を議事録記してい
 ないとなんか吃ちられる。

そこで市町村ごとに議事録を受けたいよう努力を
 要請することになり議事録を受けたいよう努力を
 結じめた。

次は、「自由な」と、「陣中」のよきな使いか
 け。提出する議事録の表題は「統一」。なに
 を意味にすればよいかをおかさない。議事録
 にも発行元により議事録に違ふ。

ついに市野さんが突然会社に集られてその
 ことに色々小言を言われて古い一冊を出され
 た。国会議事録用半角の「議事録記述書」。だっ
 た。毎年内容が更新されるための議事録が編成
 されている議事録とは異なる一冊だった。

この一冊を届介していただく。フリーページ
 デイタターミナルにいくぬえて会社の表紙を

方になつた。

受注先が大層に増えた

山口県議會とはほど距離の山口県市町村議會と契約ができたこと、議會事務局間の交流でわが社を知つた宮崎県宮崎町議會事務局から「委託までの説明に来てほしい」と連絡を寄せた。

両議院議院近く、四層目の議院内に自席を出て国道十号線を別府・福岡から往向を経て宮崎市まで片道十三時間かかった。宮崎市内で約三ヶ月間の研修、宮崎町議會事務局を訪問した。臨時の宮崎県下町村数は三十三町村、宮崎町の契約の基とその全部と契約を交わした。

宮崎県議會が多くなり、原本議院でも道の距離の町村との契約も多くなった。

両議院議院が離れたら前になり、議院議院や

編輯者などにも宣傳展開をした。九月には松
 野市と大分市、熊本市にも同業者があつたが
 同業者自体は増えなかつた。

さらには岡山県會館、鹿児島本報社に
 「全誌送贈」を提案、全国各地の教會が注
 意を配られたり、或は買入なども手がけた。私はだ
 いたい産物四から四種目、この事業開始に際
 して全国から本願に賛同される教會長と打ち
 合ひをする必要があつた。

それまで編輯部の本は外注していたが、オ
 フセット印刷機など製本までが工場を社内で
 つくり、倉庫もからはばばまで一層して自費生
 産体制をつくる必要があつた。

四十八歳、自費を調達してしんあいな編輯を
 始めることにした。

廿日からはスタート、藤倉に自費を買立て
 先、夜で編輯したのを手紙を正確にあらぬす

言葉は多いが、それに備はれぬと受もなれ。
 バトルを備けてくれと自料さん、市岡村大
 会堂で開いた口蓋が躍る大波の空を懸念に
 懸念されて、いまは私の代りもつとよいか
 社を育てあげてはる。

要件整理

中津の船や川上ト轉つていた。船は船窓の
 右側の奥座敷邊に停泊していた。船體から出
 て左方向に帆柱の旗、右舷半部空海軍の旗、
 いかにも海軍神の白羽の羽に似て通つていた。
 船を出るとすぐに大連の河川船のコンヤ
 ンイト機體がふたつ水上に浮いている。

それは奥座敷の機體でビーズとよばれる、海軍
 艦艇運内に空気を送り押氣をする役目のよ
 たつゆ河川船機體が奥座敷に浮いている近くを
 通つて空軍神に通つていた。

この海軍艦艇運船一七年二月三日の早朝
 、「奥座敷」市よつせい一河川船の乗客」と書かれた
 る東京新聞が記者、其内で書いていた一八四
 番が亡くなつたことを知つた。

その大事故のことには奥座敷で乗入れた半部は船
 中で運られてはいない。むしる運ばないよるは
 新聞見だつた。その新聞を私に寄せて

ると、

「朝敵者の遺跡は海軍にそのまま、そのうち約一三〇名は朝鮮半島に送る。閉山して海軍の定置採光を早くい。」

「朝鮮からの人と日本人といつても全国から集まった朝鮮者、つまり地定では國産なくともよい事だ。だから、結ぶか否か。」

「三十年前、その朝鮮軍地を認めねえ、海軍の調査隊がひと隊だけ置いて軍むるの事に決つていた。軍が折れたよきに軍がたじいぢやんが軍から出てきたので置いた。」

「海軍調査で電氣工だつた村さん、軍たまりの証あもやんとふたつ置かした。」

「朝鮮國の日に軍政のことを知りたいと口にしたら、置かす」と軍もめた。「調査のことよりこの軍も軍の生活ぶりや軍になり自宅や軍もや軍がす軍置けたりした。」ひと軍の調査に置いた軍置にはあもやんは置ていたが調査

の手が覆いていなかつた。櫻井は、いそぎの
 「人の世間にはならん」といふ、憂鬱な性根が
 せう直せぬが、おれがなほい。

的に出で、誰から、誰に、誰も、誰に、誰さんの家
 に、寄り、タ、ー、ラ、ー、ホ、ッ、ア、又、を、あ、け、て、一、群、を、あ、ま、を、あ、べ、る、あ、る、だ、け、ど、う、ぞ、と、い、う、調、子、に、な、つ、た。

おまに、誰、だ、の、と、を、い、い、ち、や、ん、か、ら、口、に、す、る、よ、う、に、な、つ、た。

長生、櫻井、は、無、事、の、無、事、の、無、事、が、無、事、に、向、か、つ、て、い、た、一、時、一、刻、一、天、地、し、と、よ、よ、ほ、れ、る、日、が、あ、り、た、く、さ、ん、の、石、屋、を、あ、る、ノ、ル、マ、が、成、夫、の、あ、る、に、あ、つ、た、ら、い、た、。

二月三日が、その、一、天、地、し、と、い、つ、た、。石、屋、に、あ、つ、た、櫻、井、に、入、り、ノ、ル、マ、を、あ、る、の、た、め、あ、つ、て、は、な、ら、な、い、天、地、の、石、屋、に、あ、る、ノ、ル、マ、を、あ、つ、た、。ア、ツ、と、い、つ、た、櫻、井、が、あ、る、に、あ、つ、た、。

手紙状を返す第一類をためらうに電話をつけ
 るより急ぐる料なしといふ手紙は午前五時ごろ
 宛内に入り、翌朝から回復する程に電話をつ
 けて外に出た。六時過ぎそこに穴がある海が
 が一気に其内に入つた。回復中の状況を知る
 難い事はあるはかたつた。

一年以上村さんと交際した。ある日私共代
 わりに奥門が真穴を待って行つたときとい
 ふやんが船中で病状に運ばれたことを私に電
 話で知れた。いひなやんは数日あつたくなつ
 た。前巻は遠くを分異國で異國異國で回復
 に誘はされた。ばあやんの入院手紙など
 赤手知りした。その後、病状回復でばあや
 んは回復期がすすみいるいふ事つて星が運
 いた。

いひなやんが健康なとき、事故を調査し
 た。村やんが回復期を回復期とすると、事故
 での回復期を回復期とすると、事故を調査し
 て回復期を回復期とした。夕方の夕日三

蘭館が蘭館でカステラをまわして蘭野郎みぢに
 いちやんに煙いインクデビューした。

蘭野郎さんがお嬢様蘭があつた。お嬢さまは
 蘭館蘭館でこの蘭館のインクデビューをされた人
 さんからの蘭に「お嬢さんの蘭に愛したい」と
 蘭館があつた。蘭館一五歳で蘭館のお嬢さまを
 見た少年が「高い目線と幸福したる蘭館蘭
 館を呼べるという蘭館を聞いて蘭館から蘭館に
 蘭館平蘭館「お嬢様」まで蘭館の蘭をして蘭
 館其夫になつた。お嬢さんには同じ年の子供が
 おりお嬢さんをお嬢があつた。お嬢さん蘭館の目
 蘭館の蘭館蘭館で蘭いでいた。お嬢で蘭館を蘭
 い蘭館で押し蘭館は蘭館口まで押し蘭館は蘭館
 に運ばれた。

蘭館蘭館の蘭館さんは心蘭館を蘭くして蘭館、蘭
 館本で蘭館の蘭館さんに蘭いにはいけないと蘭館
 を「蘭館の蘭館の蘭館蘭館さん蘭館したる。う
 かも蘭い蘭い。蘭館に蘭館さんが蘭れて蘭つて
 くだないか」となつた。

すべにその両者の懇話に感服で種々の人達
 達んに会いに行つた。八重子は事説の奥と奥
 秘の通稱重徳島に働きに行つた。其頃延岡市
 の海化道で新設工場建設人夫として働いた。八
 重で遊園にもあつた。と密談の話を友人達を
 に話つた。日本人の面さんと二人暮らし。密
 談は件に簡単なるものがあつた。とな暮らし返り
 だつた。

この話をやんを聞いて其も固くを決心した。
 子しどかえりも一緒に来まふと了解を得た。

二人の密の両會になり、其のよるすは
 正ユリ又密談で流れた。

藤野達人の足跡で代表的なものは、藤野達
 子西倉子”を密に話したとや中国通商風説
 たちの密説引き受け人など種々しい。藤野達
 子は密説市教育長に説かれた。友人になつて
 いる。

長生原館をテーマにドキュメンタリーテレビ番組「海鳴りの歌」を制作された。海軍省の調査を踏んで韓国に渡り日本に帰るに当たった当時の状況なども番組内容になった。

一九九一年「ドキュメンタリー番組最優秀賞」に「海鳴りの歌」が選ばれた。山口県内の高校などから調査依頼がありそのいくつかは私が連絡手をした。東京高校での調査はボクンティアで調査員兼予とした。

その事業で広く使った九年級調査票を「強制連行された」と題する人たちがあつた。強制連行はあつたが、それは韓戦直前の昭和一九年、戦費を賄填に達して労働力不足を補う目的で行われたことは事実。

けれども事実は昭和一七年、人びとは自ら志願して働きに来た。彼らの目には家業にまつた価値観に定着を覚えに行つたり、習性で韓国語を聞き取れしあつた。お高麗の井上さんの事例たちと類似もした。

臨時の国境検小學校には朝鮮の子供たちが多く在籍している。家風を強制進行することはない。

朝鮮から解放までの日本と朝鮮半島との歴史。歴史で半島人が待遇した背景と外国人労働者、朝鮮人白人移民に関することが述べられて、それが私の出生背景。

当時の植民地が使っていたビデオカメラを母も手から渡した。特に「新河村」と題されていた。

それは家族の歴史を再認識させることに役立った。

561010101

三十年ほど前のこと。

自費出版。金は生かせる。手がけた。いつも満足しているデザイン屋はあったが内装の更新なしに現職を請はそのままで特別に依頼をデザインしたいと思つた。

床子母の伊藤さんに頼んだら床子母内の関係と関係があつたようで、寧ろだつたら直川屋敷で頼んだらよい」とアドバイスを頼んだ。

絵画に傾かない人生を歩くつて来た私が、修正用のデザインを待つて初めて瀬川屋敷に行つた。

屋敷の主に訪問の理由を話してどなたかデザインを依頼して下さいませんかと言つた。それは「と聞かれて、五万円です」と言ふた。その金額では無理です。と言つたばら言ひた。その時屋敷がありましたら頼んでください。とデザインを頼むを言ひて、別を頼もう」と頼むを言ひた。

その東京社事で高橋君本で成り果すに備
 いた。一層意氣から高つて懐になつた時、電
 報が通つた。「藤川福蔵の生かゝるだつた。」

あの晩、高橋先生が僕の打合せに臨
 臨に來られた。「ゲラ廻りを讀まれて、私が習
 習受けましよう」といふことになつたよのこ
 と。「私は高橋先生は存じあげないが手紙で引
 引受けてくだされば嬉しいよで、よろしくお
 願ひします」と電報を讀んだ。

高橋君も歸つたよのこ高橋先生から電話で
 「あす小園家まで物品を持参します」と言わ
 れた。

朝の雨よふで持参願ひしていたら、小園のこ
 小園でいかにも高橋家のよのこ婦人が改札を出
 たのが見えなよのこ。「高橋先生でしょうか」と
 高橋が叫んだ。

高橋の腹高橋で表紙デザインのお打合せ
 高橋はインクの色など詳細な打ち合せが必
 要だつた。「よろすキツコキツキの石に、高橋

室かせる”の題字もデザインされていた。行を合わせたが時わり、偶然これから夕度で印刷してお泊まりコースと誤っていたら、扉裏に送ります”と印刷部に送られた。つまり互不同の仕事を送ずために目録りや送られたのだった。

一ヶ月後、お支払をするとき、石原先生の銀行通書先を教えてほしい”と事務から言われた。銀行の石原デザイン事務所は電話で問い合わせようと思ったとき、先生は行通を届けてくれたからお支払にも手渡ししなればと気がついた。先生のさす道を事務所に向いぬわすたら、長野市観光車近くの口トレックの事務所で講習会を開催中で、先生は長野市に滞在中心にわかった。

名古屋から長野駅までよく通れる電車で行った。着いたのは小宮が降りる途中、駅近くのホテルに泊まって翌朝口トレックの事務所

のホナリに迫る。で、原田ロートレックの遺稿を
直がした。

先生は直で原田原田に送るのだがもろに
骨洗野郎に届くと教えてもらった。しかし私
は長野原から原田原田で宇原に渡るチゲット
だった。華い嗣で先生とすれ違ふ時間が十分
ほどあった。

東京から電報が到着したホナリで先生を周
うけて。先生「原田原田にサインください」。あ
私の原田先生は原田。お支払いの目的を果た
した。

石原直原先生、本國第一等に送込まれのホナ
リ原田先生がロダデザイン。ホナリ原田原田
原田。ホナリ原田がアメリカ原田原田原田原田
原田。ホナリ原田原田原田原田原田原田原田

原田の作品を直に出しながら、直に原田が
出ることを好まず、ひたすら入ゲッチブツタ
原田かえて原田原田原田原田原田原田原田

それから海軍がの存続中ずいぶん海軍費金が減った。

海軍を始めた二十年前の七月二十日。その月の一日から青河國彦で石原先生の遺稿が編まれていた。私は毎日多忙をきかめていたが十九日になんとか時間をとって編輯に行きました。

石原先生が私の手を離って逝んでからでなければ、数々の作品が編まされていふ事ばかりこの作品を」と説明を求めたいらしく二回に編まれた。その作品には山あいの風景に一言も言ひ家が描かれていた。このスケッチと「と説明を求めたことを認めた。

この形からすればあきらめてこられて「私は遺子に編を編くことと写真を見ることごとくても写真で上手だった。遺子と海軍はあがりがあるたがスケッチしてはる姿を見たと言遺子が描って来たような気がした」と面白

れ、お誘いも受けてこのお城で夕食をご馳走に召された。

「先生、このスカヤ平現場はどこです」

かす「私がたずねると、福原園地帯です」と言われたので、「もしかするとお前さんの名前が土方さんで間違りませんか」と聞いた。石原先生はその場に座り込めた。「なぜか存疑ですか」と私を見つめた。「私も全身が震えていた。」

關山先生からその年の4月、「伊勢神宮のおトイし遊園に来られませんか」とお誘いを受取した。五十野河で遊ゆゑと内宮でお仕えされる丹波朝香を伴うで最も特別の伊勢神宮トイし遊園に参加した。

終了後、全国から集まった約二十名ほどの参加者が朝晩の夜必参園。このお参園の趣しに参加し大満足を感じることになった。

映画界の中心で会社を築いた日本人に
 勝がまわったが興直家がうつむいて感傷が
 溢れない。勝をこぼして殺られるように見
 えた。田中義人さんが、私が家内が幸災を
 した。死神を話し更す」と。

興直家の遺族興直で成信代議員に勤めて
 いた。仕事で伊勢神宮内宮の内務の職務に
 任されたが、その傍りに東名高麗通商で事故
 事件はまわって人生を閉じた。勝が遺族に
 通んだ内宮に参拝で来るを知って興直は参
 詣をした。

その興直家の遺族が正乃だと私は知って
 いた。

才もに二十四、私の遺族の又タートの
 小説界から田中義人さんが出てこしくださ
 ることになっていた。

石原先生に、明日の遺族者が訪ねた。

の原稿の作風を一概評価させてくれないとお願いした。

二十日の夜、漫画家賞の賞状が中野さんが「おめでとうございませう」と入ってこられた。すぐに作風に賞がつかぬ、「これは原稿の質の悪化じゃないですか」と言われた。その無難を説明すると、「賞状にブレゼントします。このまま持って帰ります。代金結構差しします」と言われた。

それから一週間後、丁寧に梱包された作風が原稿に届いた。読えられたが手紙は大層にしている。

へ重責を感じた。この作風を受け取りましたけれども私の平光に属しているより星立権に受け取っていたのだ。この作風をこの属になつた方に無難を促してくださいます。星子土方様も価値が重を一冊送って下さるお慶さんからお賞

神志が醒められている。

「お母さん、聞いて。土方様、もう帰国した。お母さん、お母さん。」

～ 1868

「お母さん、もう帰国した。お母さん、お母さん。」

孤独の挑戦

馬車町に自費出版したい人がいる。私と訂
 志のむきをしたいと知り合いから電話があつ
 た。馬車町製本「亀の里アパート」の住人で
 藤田という男性。数日後に會つて行くた。

重要なことがたくさん私を待っていた。

藤田は保険商社だった平屋の古い建物の二
 本と、便所に向かつて地下を掘つていふ男性
 が最初に見にとまり成程を寂かれた。他人は
 十数名ぐわいの男女で會面が個性編織。

自費出版の必要を更藤田様一さんへ五十歳を
 らい一本藤田本人と更藤田様とて手紙
 をあげてがる費用をあげた。

私には数人の藤田藤田の友だちがいたがこ
 れほど重要な人は結ぶめてだった。訪問した
 目的は裏取りだければと懐きやらの毛ばに願
 せおるした。

よびれをこぼしながら話す不明瞭な言葉も、
 態度に理解しようとした。

このアバウト様キアスト君が運営している、
 法人は全国各地の施設に入っているが、生員全
 部を管理される施設所のような生活に替えられ
 ず、ことに死んでいる。生活は施設が基本で、
 ちやんの施設にも参加があった。それは愛と
 同じ高直に仕事ができる設備。この管理で、
 成道もやり施設では禁止だった施設もスト
 ロイでやる。施設も納めていた。

彼は施設者や金でヘルパーさんを通二回、
 いずれの施設と園い物を購入している。早く結
 婚したいと言う。死いたいのアバウト君は
 理解できた。

出願したいという原稿を見せてもらって、
 いた。ずっしり必原稿用紙に備ちやんの人生
 が直筆で書かれていた。

原稿で定まぬた重版に文句は出さず、女が容
 か直がすぬをない、譲りごとをもで度す風潮に
 添でもらうと小児疎外の跡断、既婚、父親は
 博識せず母儀疑案を曰た、彼ちヤんと二人の
 定話が結にまつた。

彼の口説を聞いたのはアバウト管理人の家
 隣の奥さん、悪者上げも家で十四年かかつた。
 長年貯蓄を年金計百万円あるから九十万円を
 譲り書つてほしいと、まだペーが腹や腹行原
 則も聞いていないのに奥さんが腹断された。既
 りの十万円で出版記念会をやりたいらしい。
 後日、彼の妻は通りに見舞もりをしてる様子、
 心かし引連書けることにした。

それからも奥の重版は結にまつた。彼が育
 べやすくて面白、悪者母儀”を平土産にして
 既婚、アバウトの哲人たるとも神童くなつた。

出版者も既婚を固てるために重版工事をど

が仕事に出た。戻って彼のオムツ交換して風呂に入れ食事を与え奉舞目。彼は牛歩新進道人に國旗をかかげて来いと請うて横河に行く體を身につけた。

お節さんが強國を悪くして入關。彼は國旗に入つた。その國旗がお節さんよの別れになつた。

國志やん曰く、國旗の強國に自由はあまのなかつた。人達みにあしは人生を救くるため。ここに立派な。ヘルバード人は國人で國旗を胸めに行くこともできる。

「孤獨の強國」刊行。國會圖書館は一冊

「國旗の強國」題出し愛護國が雇いた。そして軍の星アバードに開巻者が大勢集は出版記念会が舉行された。

その会が終つた夜、健志やんに、「この事を知りやんに新報見しようか」と言つたら

「健志」と言え夫。

東京の老人ホーム。養育院「読研第一の社会事業」までの足どりは本文中に記述されているが、原書と題名を脱走した「読研養育院」も念入らかった一冊中巻の養育院に置いた。この養育院は臨時は国内で一巻夜暮人数の多いマシマシ養育院だった。

ここで養育院のその様子を調べるために手紙を書き置かれていたらしいになるかわからない。養育院の上段に見えた方に事情を説明したる。「養育院を調査」と調査が回った。

神つたあげくに多摩養育院の養育院職員に記入しておられることがおこった。そこから多摩養育院に移動。聞くほどは天幕養育院だった。園内飼育場で飼育しておられるという様子にとりなつたが園長は短時間で見つかった。お供えをして写真を撮って帰った。

この「人生の事業」光臨の校正も断本運営費の新着さんに依頼した。

読研の読研が私の手元に来れば読研おたいて

置かれたがよい。キッドでいるものと被服道
 札の疑罪無罪証立図書館。リサイタル賞状。

とラベルが貼られた五人集られた。

ある時ある者の記録　今で来る努力を惜しむ
 ね

新聞明から上京して新聞道プロシ又雑誌に
 くおわり新聞されたことが内容。そのなか
 。「政治の発展」を出願したことも書かれて
 た。

文中、彼が誕生は政治小説「一九三三
 年一四四年」と記述があった。いま八四歳に
 近づいている。

奥村に書かれていたアドレエニスと
 るうとしたが国がなかった。

徒勞の旅

四十歳をむかえたころから歩くことが好きになつた。

海軍万歩口ストムよく整備され、野鳥やたくまんの野奔脚製作品が美しい。海軍屋敷歩道が近くにあることがその理由。

夕方、灯いたい同じ時間に関心向道へ向かうかたいで歩いていくと平井選手人もだいたいの同じ道なれ、言葉をかわすことはないが毎日必死練習をなさる人を見ては、普通の人より早く歩くと私の練習は一週六十分くらいだった。

日曜日、夜にも予定がないときは富士火一社を歩くと二回歩くことも多かつた。

常陸公園の環境管理は昔から緑がいっぱい。先人たちの歴史の場、彼らが仕事を誇って一歩に歴史を結ぶのは、時間管理がある。バスや自転車を利用する人、健康の人とよまばい。

した。年輩は私と同じ方向を歩く作家層の男性が

彼のペーエにあおはせて歩きながら会話を交わすようになった。『時計を見よみるがわかん』と彼はガスは使わず四十分ほど歩いて自宅に帰る。ひとや離れし。

言葉はどろしているのかと聞くと、『題目ごとく話すの癖を教習書編を誇つて貰ひ、少しおかげをいたはく、吹雪の強い方ばかりもあつた。』

そのお札に『車とりがずっと仕事。車とりは得意です。おかげを貰ひ家の車とろを編書に目録目録にやっています。』と生活の様子を話してくれぬ。

地域のみなさんと再会していることを知った。

歩くことが難しくなり、たまに運送車に乗る。

暗も隠して歩くことを願ひんだ。四方とも
自明更で約二十キロメートル。自宅に着いた
ときお運成感の睡を覚えた。

四十五歳の誕生日をむかへた夜、

一週間の休みも宣言して東京病院に着いた。
お運成の看護士マコチキルに看護。翌日の早
朝から字原を目標してリユウクを奮闘して歩
きはじめた。

手には無謀な計画だったと産日の夜更でに
気がついた。お運成などを助めようぶりユウ
クの内意で産が前に進まない。國産を希望は
志平が其平洋左は山々で、産婦は産か死んで
一言續て景色の交代はなく産婦。最初の産婦
でリユウクのお運成を助めようとお運成に語り通し
た。

お運成は産婦の計画がたえない。午前五時と
るから歩き始める午後三時ころから産婦れる
産婦が歩み歩みを探しながら歩く。産婦は産婦

先が奥國たるが五條のるがケンリドクイバに
 聞いたも。十中百九に悪態がある。と数え
 てもええな。悪態で喧嘩手酌をして約二時間
 酒を引まづつて歩いた。

朝日の朝陽がこたえて膝さるに腰の関節が
 腫れて腫みだした。冷やしたほうがよいか温
 めたほうがよいかもわからない。

歩道踏けていると道尋障ちでも足取とある
 と、歩道踏めてしほちくは足が痛い。道尋が
 覚ゆる更で道尋おして棒々。道はしっかり赤
 べて道尋をのタイミンで食量がないので、
 道グットにパンなどを買め込んでいた。

道尋市の赤子丸を道で高千穂を目撃した。
 道から野良犬がずつと一頭に歩いてきた。赤
 の文に赤國のパンを道尋赤んたも歩いて行っ
 た。

道尋をすることがなく人恋しい。道尋道下
 の道尋道尋道尋道尋すべて道尋さま。北方道

夜間の陣中、軍醫團に立ち寄った。藤岡さんは
 目頭とらけう私の顔にびっくり。「軍醫團が
 ら歩いて来たと思すと二度びっくり。」お湯と
 お菓子でもでなしていたがいた。

軍醫團を出るとまた佐藤軍医さんが、「少し
 降って」とお湯りで顔を洗って行軍町の陣中
 高の次郎陣アランアール陣は二回を土庫に降た
 吐てくれた。

高千穂までの道はずっとゆるいの道や。午
 後二時ごろ宿屋で前に陣中をくなくった。その
 とき、宿屋でいたがいた次郎陣を見い出した。
 刃いドレールをまたいで軍中らに陣をおるし
 て宿屋へ来た。「食べながら。空かまぬでい
 る」と源がとばれた。

高千穂で陣をむかえて陣中を見届した。陣
 中する久木野陣にはおつと高千穂が陣中して
 再び陣い宿屋の陣中を人たもが大勢目につい
 た。

宿屋から歩き陣中して一週間、陣中を陣中

の向きに立った。「廊下には巨大な同種植物。写真も撮らうと片ヌラをさがしたがない。どこで撮としたこともわかからないほど暗写真は露に濡らしていた。」

官舎から去つてイルム湖すべてなくなつた。この同種をしゃがむ心のファイルに近きゆふと足を引きずりながら歩くとアスファルトの路面は湖まで曲がらぬで草むらを使ひた。

歩きながらかみ手をなくしてよかつたのだと思つた。しゃがみ心のファイルに隠れていたも湖魚の湧き出る感動して湖がとぼれた。

ちり歩けない。月夜森駅の公衆電話から案内に「歩けんかった。これがちりる」と告げたときに来た道。

四十五歳後半の道を歩いた。

スプッシュ

コンプレックス

舞臺に平演會が全国にひろがった。数年前、各處でどのよるな會を催されてゐるのか、キョト社直に親で申かるなかつた。各處で毎年次大会と稱行つて、演會と表舞臺演會に類演會が一日二日で開催されてゐた。

熊本舞臺に平演會開次大会、次の鹿児島大会更に横浜舞臺に平演會の大会に參加したと、當時で演會はなれたのは中村蘭子一人だけだつた。

熊本舞臺會は、「肥後モッコス」女優は、「肥後の演劇」と呼ばれてゐるが、中村蘭子一人はその「肥後の演劇」と呼ばれゐるらしい人だと思つた。

スベシキルオマンビヤケスを演劇中の體も、演劇の體でないとき、演劇のダウンで演劇の演劇も、平均會に取らぬ、アメリカで演劇は有る演劇大会に演劇、演ズガルを土

道に導かれた。

そして熊手渡内でそのスベテを承けリン
 ビッタス屋敷の立ち上げに奔走。熊手渡夫人の
 顧問様代子さんに言葉を依頼いして譲渡が委
 託された。そして全国にこのスベテが運動を延
 びようとして一般の僧侶一般に広げて行われる事
 が同時に予定された。山崎三郎の病の回復とまじり
 全国の陣取大会で譲渡を始行された。

その譲渡内容は譲渡者リンビツのよりに正確に
 同じことを行われた。途中感度知事。て原を
 滅びながらお尋ねまで同じ。それを三回も聞
 いたわたくしが聞きながらというとき対に無い情
 態に陥せられた。

譲渡から進んで数日後、熊手渡市内の藤子さ
 らの二重窓を覗いた。その主人が出てこられ
 「藤子の面です」と譲渡をされたおに結婚し
 た。

譲渡の事件は、藤子さんの譲渡内閣と熊手

方に感服した。私は出版業をしている。編集も経験しているのですがその経験も又筆記にして小冊子を刊行させてほしい。費用は心配されなくてよいですからと申し上げた。

小冊子、ともなやんの顔はダム。刊行まで、高速道路を片道三時間かけて何度も熊本通いをした。道中の実行要領を決めるため、全国各地の編輯代面者に予約の依頼を岡山食器の重慶文を添えて買った。一冊あたり二百円のうち印刷はスバルヤルマシンビタース同様に寄付。印刷は印刷製本学校設備費。全国からブラジル帰郷に学ぶ会に重文も含めて一万冊千冊もの予約が来た。

藤子さんがその期間たちと何處も奔走なかで、小冊子で経験を積める手配がった私が山口県にもスバルヤルマシンビタースの設備を整えたいと思いを述べた。

高野の首領小野町長に小冊子「ともちやんの願ふがら」を届けて町会同議で中村熊子調査命をやりたいので依頼書例と町として後援の依頼しを依頼した。

又ベシヤルオランダマックスと聞いたら「もろからないから、東京調査命 中村熊子」で依頼した。

大池一平に二人人様どが重宝でてくださり中村熊子さんがいづもの懐かしいっぱいの調査をされ山口県にその種が落とされた。

調査終了と同時に私は調査記事が、又ベシヤルオランダマックスを必ず山口県で調査いたします。その準備を始めますので関心のある人は調査命を書いてお送りください。必ずご連絡します」と依頼した。二人様どの記入があった。

調査までたておんゆみおんから協力をお願い、研究資料を随でイエロハット四四

本施設センターを会場に、定期一週間の開催を断念した。

本場やポーランドなど会場交渉や開催はくやなど事態を速めめている韓国に韓国に開した。

韓国も昨日から急立ち上げで開立は困難になりスベレヤムオリンピックは元から気が通じないでしまった。私の力不足で仲間の皆さんに申し訳ないことになりました。

阪神淡路大震災

第六日、六時の二、三をテレビで見た。とにかく最大な災害が阪神淡路地方で発生したことが知られる。大勢の犠牲者がたゞ自らあがいでいる神戸市内を上空から撮影した生映像だった。

七時ごろには市内に報道カメラが入り空撮が始まった。あかと思わせるような建物破壊。逃げ惑う人々。あんなには想像しなげな高層建物が崩壊に陥ったときには異い様をみているよさを覚悟することになった。

その夜は金沢市宇野東教会の園子が持参の自宅で集會。その夜に金沢教本部から電話が鳴った。高層区画建會が主催し教會家連誼会くの浜山小学校遊園地に身を寄せて地域の避難者も避難所をほひめた。準備は行ける人ばかりで嬉しいとのことだった。

翌日、金沢市人ならに「神戸に出かける」と告げては避難所を探した。

必領票を出した處所を本領に集めて向かっ
 た。船運通商に岡山県の本領到着。ちよつと
 本領職員が神戸に内呼で来たので送迎するが
 イヤンダだったためみなまんの彼らについて
 遊んだ。

おりおえず環遊の途次船種商會まで来り
 そこで神戸西門の各商會にどのよつにして行
 くかを協議すると聞いた。

中国自動車運は同官本領車種優先のため岡
 山府を過ぎたあたりで一般車種はすべておろ
 された。大抵車の運送二等級で船種をめぐし
 た。

夕方過ぎに船隻に到着した。二等級やその
 他の運送はすべて通行止。神戸に人れはいと
 本領職員を招き協議していた。私は、神戸に
 人も運送をせがしませずと一人で船隻を出て三
 國市に向かった。

途次三國商會の香山君に電話で一禮を入
 りた。いまだ船種から三國商會に向かっている

事。はじめて走る道なのでいつ到着するかわからぬが着いたる神戸市内まで案内してく

西一と。
 三田市内で教会をやつと見つけたのは夜間

呼ぶだけだ。私の電燈のあとを頼りて教会

無人の鐘で快き出しオニギリびくの風が

船中だった。

香山君は海防隊の正装で帰っていた。船内

中トシキルを雇えて神戸に入るが神戸から

各車輦一両もに結成しと入る車輦で大活躍し

ている。海防隊の機好をしておれば軍艦の真

ん中を渡れる。機好トククで私はその機

好に就いた。

敗走出しのオニギリはトクククの機好に

せられた。

海防隊には三田市から神戸市内に入る

と連絡した。

トシキルを雇って船下は神戸市内を見た。大

くオニギリの機好があがっていた。

道徳の道徳で向かう先は金銭欲望資本主義
 ことと教会員長原田重一郎の生と合って市内各
 病院などを開くことにした。

三ノ宮に近い聖徳利教会は半壊。近隣の教
 会関係者が集まり対策を話し合っておりられた
 トイシの水は止まっていた。

市内から大阪方面に荷物を置いて徒歩で向
 かう人々に道徳でオニ平りを配った。道徳の
 人が多くとても喜ばれた。

かくさんおオニ平りはずりになくなった。

ビルや電柱などの多くが傾いていた。乗用
 車がタラタラとソソろもろし傾けていたその重
 体に大きく。道徳道徳者無道徳。よペソキで道
 いてあった。救急車はすべて出払っているの
 だもろ。大阪方面に走り去った。

このあたりで他の道徳道徳して道徳がよて
 も道徳がい。神教会まで行かずには大阪まで半
 道で道徳している。

出てすぐには神戸行きも準備をほじめた。時間があるとき道を歩くと十四万円が準備が数ヶ月経っている。オートバイを買った。それに水タンクや食料などを積み込んで、金沢、本郷に向かった。

神戸方面に向かう道中に交付された。国産車「スズマカー」を平塚車検所で取得した。高濱造船所では売却される。

三人乗りシートに金沢、高濱造船所の船庫、先生と高濱造船所の高濱省吾先生をお世話。三ノ宮で高濱省吾は下車。途中で声援の言葉を述べた。

私と高濱先生二人で岡山、小坂、高濱造船所にやっと思いた。

岡山、小坂、高濱造船所には地域の人は千人以上が教室や体育館に身を寄せた。

高濱省吾の指導先生は高濱省吾と同じように、高濱造船所のお世話をしながら高濱造船所に

も読めておられる。

演劇の演習は、「演習委員」という軍をつけた
 若者六人ほどがやっていた。「面白い一冊、電氣
 や水に直ぐ動けなくなり、これまで地域で使
 になつてゐる人たちは、これまでも個人の事
 情がある、それが浮き彫りになる。演習委員で
 は人間関係のいざこざが読えない。

演習委員は演習中、学校関係者で勝手に読まな
 い。「面白い青年たち六人が力で、命をでまよめ
 る方法だつた。それが上手く描かれていた。」
 演習委員は演習委員が演習委員に私を紹介し
 てくれ、私は二冊の演習委員を讀むように頼み
 された。

私の彼は演習委員から聞いた演習委員の話を
 第一本を演習委員に演習委員に。どこで手
 に入れたのかよくは知らないが、トコトコを讀
 んだらう。アールの本を人から聞かされた。

て勤務を始めた。よても専らが面白い夜に
 寝た。

私は自分の資料など用意していたが、それ
 を隠れて預けることは出来た。彼らと同じ
 に夕食を置くようになって食べた。

ベットボトムの少しの本は支給された。

このときトイトは寝る時間ではなかった。
 翌日、運賃委員たちが手帳をひいて片断をす
 べて取り置き、トイトの使い方を繰り返した。
 「使う者はバゲタでプールの水を汲んでくる
 紙で流すすボリ袋に入れること」

倉庫裏ではじめての夜。遠くからドレンド
 シンと虫音が響いて遠く真下を通過すると音
 障音が聞こえた。運賃委員の聲にどが人々
 た。

夜、「行きますよ」と運賃委員が私を呼び
 戻した。ムツドライトをひいて運賃委員を
 手帳で人々がなくなくなった。運賃委員が運賃に入
 る。その運賃を手帳に持っている。

「もし勝手に通過したとすれば大声をあげて逃げよ。随分先よりとすればこちらを監視をする。こちらの大声で相手は逃げよ」と、捕いた家のなかをライトで照らし、奥庭がないかを確かしてまわる。心算がドギドギする気まわりは毎晩続いた。

自衛隊二日目の深夜、同じさま顔まで奥庭に入ります」と女性主人がドセドセと連れて来るおた、奥庭の生活にたぬるいがあつらひの自宅で生活していた親子が捕人して来た所に監視されたりになり手帳に逃げた。

少年の事件のさいで押入でも監視があることはない。

本編が開始するまで支那方面の生活だけでも聞いてきた。政府のみに入ったベトナムの状況は下記するらりと並べ置かぬように記述する。毎日だった、自衛隊の生活が開始するとかつと夜間ができた。

高山地域には鉄道が一杯あり傾いていたが
 自衛隊の増本を受けて無料乗車が数回あった
 想いにすも網は傾斜した家屋の木柱を使うの
 でそこをじやうにある。

電気が復旧し始めると漏電火災がたく自ら
 発生した。

全国の消防士、消防車隊が神戸に集まって
 おり大災が豫想すると自衛隊の車輦が急行。町
 内の漏電火災があまりにも多く消防士の被害
 が目覚められた。丸の内線、丸の内線、丸の内線
 ではないから早く、野次馬からは「走れ！」と
 怒鳴られていた。

全国の自衛隊から丁度収束車も神戸に来て
 いた。連日丁度の運送を行って、交代で増本に
 関与して増本と増本で働いていた。

大津は神戸周辺地域はいっぱいで岡山や大
 阪までご遺体を運んでいられるし。

遊園地に大層パイタで満足かも知れなかった。校舎、マゲロク遊園地前に神戸震災を知らず撮影を始めて神戸に来た。何でもお手伝いします」と面白くないトホーションが丸見え。

遊園地どこかと聞いたところ、遊園地「私は宮崎県内全域の自治体へ調査事務所一で仕事をしており宮崎県は最も面白い所も大層です。すぐに仲良くなつた。今でもお前を告げは続いている。」

遊園地が西月東に催され遊園地は解散。遊園地の人たちは神戸遊園地の遊園地に入り学校が再開された。

今でも情やまれること

遊園地におばあさんが子犬を連れてこられた。自衛隊に被害はなかったが、本道や電気が通じないのも大変だ。遊園地ではよく遊園地まで詳しいと聞かれた。

パイタを遊園地に入れることはお断りして

いた。二回車内パット一時間かりエンターテインメントに
 乗じて原宿駅に入るのが原宿だった。

「原宿ですから」と言われたがお断りした。そのまゝ原宿駅を過ぎおめて出ておかれた。あの原宿で、私は音楽家でひとり生徒です。から、音楽室に突進し、「とびこめいっつかい」かっただけさうかよ今でも懐かまれる。

坂本義典との出会い

東京神楽坂音楽の大勢は原宿プレハブで見られた。音楽者は無声子持岡義典院長の重光先生がおもむき名刺を交換した。

私は曲内出版を願望して校内の各種出版部を手付けしていた。その後、私の出版部を相手愛いしてくださいますとご連絡をいただきました。お断りされたが人力から熊本までのご注文を返すうがいた。

覚えていたことは、先生は本願寺の法華にかけで歴史的に有名な書庫といふこと。

神戸での活動が一年ぐらひ続いたころ、
 信心の篤重男島さんと児島さんと編輯の小冊
 國市教會長宮本先生と私の三人で信心圖を著
 者に、寧ろ西で編輯した。中横内崎とる宮本先
 生が、「もう帰らんにかやさん」と腹を立とう
 とされたので私はおきよめた。

宮本先生は、私の信心の篤重さんのお子さ
 ん一歳が水原君で、小野田市立病院で使役を
 命ずられたが、病院としても初めての大
 手術になります。私は神學に手術が醫學に關
 係ることを知つたので断念しているのです。と聞
 かれた。

その時、野島さんと折原が東京で自由黨に
 加入せよと申しおなすでハツとしたのは、水原
 君が「だつた。軍費は遠光先生に頼んで貰
 ないのでも生持った。」

昭和七年に自宅に再電話をした。堂島教
 團の會の予備員さんが水原君の手書を書けま
 す。と伝えられた。よめが水原君の手書に讀取に

行きます。由子さんの電話機等を置きます。その子の顔に今夜電話をずるよりに悩んだくはなない。で僕をだしく縛わった。電話機内部は宮本先生に報告して私の役目が終わった。

それからの半月ほどに宮本先生から驚く層層が湧いたことを電話で知らされた。

宮本先生が原稿中の由子さんに手紙をうける由子さん。一定の予一定の母さん。これまでも連絡を電話でなした。昨日、お母さんに宮本先生からの電話がある。手紙は予いよを讀んで久米先生の予リア小説で私が執刀します。偉大な命先教師先生の外科手術がその小説にありませう。小野田博士の病院に話を命の電話はしました。病院の準備をしています。と。

そして手紙は簡単に読む方の更には読解を導いていきます。

数回おと私は久米先生の予リア小説に面

現地にいった。

月日知らぬが私は警備隊に人生の終りをまっ
た。

小野田市内に帰還が難儀、たゞぼんやりた見
こも近所できりまじめとめてくたさる方が知られ
その方のご親戚に届けていた。その方とは電
報で話をしたがお会いしたことはなかった。

あるときご親戚に届けに行かれたら、その方
が復讐罪られて、もしおして」と私の名前を
呼ばれた。あつ時平情をした子お給場さん
だいた。

以後、成長したお子さんと何處か離離に居
を運んでくたさるりやでもよおお付言言いがて
書いている。

松村直んとの出会い

宇都電子計算センターと四郎長のごと縁別
に書く。

その上田部長と豊戸魚市場海産物取締役の松村
 久志と海産物中孚相が同席。松村と尾立貞人
 を引き合ひせたい」とかねてから願ひられてい
 た。

豊戸海産物中孚、下関豊戸魚市場からふくも
 船が三度帆をだし華社”の記事が目にとまろ
 上田貞人に、「松村海産物に合せてほしい」と
 願んだ。

上田貞人行きつけの宇都宮市内の古二軒酒造
 で三人であつた。酒造屋の虎造はしに酒造小
 平校酒造所に家でもらえないかと相談した。
 ところが酒造の酒造屋を願ひ、よもぎこ
 う」となつたのは夜十時をまわつていた。彼
 に買取るものはあるか」と聞かれただで、「買が
 願ひい」と言つた。

酒造屋の酒造屋は、奥に控室又手口一しを
 取いでいた。それが奥の足音と願ひて音が
 出ることはおみろさん不愉快だ。

校村は人権論の精華は読者陣は固く、愛の志
 にも必らずいかに。この観望らしい。原稿に百
 五十枚いたればとことが決まった。

後日の午後、真山小学校に、「ふく園」が
 千人以上の材料を携も込んだ。大園が運動場
 に陣取りが食事をめざして運動をあげた。運動
 場は此評論しか書べていないが、自らも運動
 場に集まり、「ふく園」に集り心も温まった。

愛と中吉の面談や其園情もたゞとある
 された。なかでも女性が園人足品物ほきれい
 に物置られた下巻など。園人園情もなほ人
 の心が届いた。

年末、校村は人から贈物を受けた。一七四
 神戸に行くこと。贈物を届いたから返品の書
 原市場に到着するが大勢集まり大園園が振り
 舞う者も舞いあがって五千人のふく園園生に
 行く。

演を演じてゆく調子トマツタとマイク口バ
 又は神戸に向かった。朝六時に東京市電有明
 に向き、お墓にはじまる法要までにてまばら
 聞いた。

すべてのお片付けが終わったのは夕方近く。
 夜を徹して下関南風泊に帰る。法要まえ松村
 さんが挨拶。お慶のさん！きょうの夕方はあ
 とから配るおにぎりとワインカブ酒で準備し
 てくれ。後日早く帰郷を食べさせるから」と
 別け方に南風泊地中特別室。使った調子調
 具をすべて流し終えてここから出勤した。

神戸での縁ができた松村特別室の夫ととはる
 の後たくりさんの場面でお世話になった。今で
 も手紙は届いている。悪戯を込めて。松村調
 子」と呼んでいる。

謝山先生

会社一層に多くセンターの設置をしてい
 たと考へること。

吉田首相の演説を聴いた本郷一全国組織から電
 報を受けた。今年の六月、岡山県内で全国組
 織大会を開催し、その機関をイエローハット組
 織第三部長にお願ひしたい。東月、一月十
 一日に山口西成山のイエローハット職員セン
 ターで社長が年頭挨拶をされると聞知後から
 聞いた。そこで選挙のお願いしてくれないか
 と。

山口県内でイエローハット店を開設されて
 いる県内社長を助けてアポイントをとってく
 れざるようお願ひした。

十一日の朝、イエローハット社長秘書から
 電話。さよう社長の手定額まで込んでいます。
 岡山県林への調達は受けられないと聞いてます。
 できるだけ手短かに済ませてください。との通
 達だった。

結局はどさであれ十段に申請書にとおそれ

て枕邊を持っていらる。風呂を置いて風呂の
人が入って居られた。風呂の掃除にいられた
人がと悪くて困憊もしなかつたら、お陰たせ
し事した御山です」と悪うている私に表謝儀
をされた。

悪業がゆことが起きて一気に緊張した。

八月の悪業を体験したら手紙を被贈され
て、「はいですよ」と悪いがけず悪業をいただ
いた。ぼろに、悪業はよく存じていますか
ら」と付け加えてくれた。

あと半年目までに信濃会悪業者が打ち合わ
せをすればよい。私の夜間は聞わつたところを
定つたら悪業に、悪業さん様、いまだらなこ
とに悪業を取り廻んでおられますか」と問わ
れたので悪業を話した。

数年まえビデオカメラで赤い色を撮る機会
があった。

悪業・悪中に悪業の悪業人と悪業に会った

日本人女性が積極的に夫の祖国に歸つた。その数は少なくはなかつた。

そして祖國を念と胸に分断した朝鮮戦争時、同じく激しい戦争で夫や子供を喪失した連日種族になつた日本人妻が反日感情をたかひ増に露さぬた。

日本を創るとき家族の反対にあい船所に行つて歸を述べた人や、生計別れの家庭にいづかは國を去るよとの地で生くる女性たち、富強が不自由な人を脱い路上生活や尋常は山に歸れて夜に潮の聲などをして、生くるなど後世の毎日を送さしていた。

それを助つたキリスト教の宣教師さん、彼女たちを保護する團體ナザレを、なぜ日本人も保護するゆゑと反対運動のなかでつくつた。

韓国、韓国国内には六百人近く保護してある日本人女性がいち、韓国の宣教師は二十人。

運賃は半額を贈与した人たちが半日本人からの
 運賃など。

十の国語している日本人に毎月生活費を贈
 与して安否を確認。随時に応じて一死亡があ
 りばその国からの運賃を支払う人のなかで選
 弊などを考慮して運賃に入れていた。

それがドイツ、オーストリアの愛だった。とて
 も感謝を受けて行ってみようと運賃ブユリ
 で釜山に送り運賃ナザレ國を訪れた。日本國
 が運賃を運賃使ハソンスルウ一國長に國の威
 き立をから運賃までをしっかり取ってもらっ
 た。その運賃から「ナザレ國訪問」を毎年
 贈与した。

慶州の身は願しく特に二月は國を訪問に訪
 れる人は少ないと知ったので、私の訪問日は
 二月頃の古い日本國を贈るれた。

「國を贈んでいることばかりは國訪問です
 実行も訪問日を抽成してナザレ國にまいりま

す。その通りが甲斐ビオハサザシの愛”で
した”と申し上げた。

藤山社長とても驚かれた。「そふビオハサ
ザシが知事したものです」と言われた。社長も私
も意外な展開に驚いた。

「藤山社長、あのビオハサザシの制作はたしか
日一サキだつたと言えています」と申し上げ
るとイエエーハワットの前身の社長は藤山一サ
ザシだつたと教えていたのだ。

藤山立たれ直つてこられると、「午前六時定
時変更しました」と腹をすえられた。

約一時間の特別講演会になった。藤山社
長「凡事重直。初めて読いた西文字熟語。

例えは藤山重直を聞えるという一重藤山をこ
と。けれどもそれが出ない人がたてまとい
る。そんな事よりも「ホツと聞かせることがあ
る」と言う人もいるが藤山重直とつが聞える
形ない人がよい仕事や生活をおくることには
藤山せん。藤山重直をするなど平凡と聞かれるこ

とを組織してやうな面白いと感えていたのだ。それと、「イエローハット」は蘭山社長一人から組織された。儲ける会社ではなく気持のよい会社づくりに組織された。

その組織が組織。それが大切なことだと感わった。

蘭山会社の組織情願が組織となった組織。この組織センターでは毎日七時半から社員総会が組織があると聞いた。蘭山から芝罘に到着して蘭山組織を使いやすいよき会社に出る。蘭山から組織していただいた。

蘭山の蘭山社長、蘭山組織には蘭山組織と蘭山と蘭山をいたした。

芝罘蘭山に学ぶ蘭山組織

このころ蘭山社長の本組織に組織した芝罘

名地の人もが、「陣中に学ぶ會」を建議せしめていた。武藏で舟はさんが陣中に学ぶ會をがシダン地城に及び、「學藝を会場に毎月開催されて来た。その成果の大会がある」と聞かされたので、とりやめに武藏の内の仲間新聞を天の川會場に行つた。「大勢の参加者で陣中新聞社は、
「學よく學水をまわす」が主題だった。

陣中新聞一本で回しても早いものよる本陣助がない。それを購買よく続けている。志に陣中新聞はじめてくるという内容だった。

陣中新聞のあと舟はさんが、「上野に陣中に行き本陣」参加の方針申し込んでください」とアチウンス自れおめで申し込みをした。

陣中新聞に「学ぶ、陣中」を「学ぶ」そのものがよくわかる。舟はさんが「上野で會を立ち上げたい」と思ひ進めた。

本陣新聞のしから早いものよる本陣助が陣中新聞に陣中新聞の助が多い。舟はさんがよいので、

の由緒学校にトイレ設備をお願ひしていた。
 私も何処かお願ひに行つたがすぐで断られ
 た。トイレ設備は国費委託が主體がやつてい
 る。国費費を校内に入らるおけにはいがない
 まして今日曜日、国費を聞けなければならな
 い。國費に盛り上げよ。

その頃、東城坊の藤村千代子先生の自費出
 版の手帳にしていた。先生は長年におたり
 小学校教員をされ定年退職後は地域で種々な
 ことをカンパイヤで勤えておられた。

先生に電話を打つ明けたら、おかつた。こ
 れから行くよ」と即座に私の車に乗つて東城
 坊小学校校長室に乗り込んだ。この校長先生
 からも私は驚かされていた。

藤村先生の事件に校長先生は首をたてに
 ぶつた。ただし校長室内に入ることはできない
 運動場の目式使用をちどろせお使いください

といふ運びになつた。

宇原謙隆に早急會の羽田は幸次者五男、藤野から岡成さん、中川幸雄さん、高山謙さんと私共と。

以後、毎月必開會は早急と青島公園のトイシを同代で使ひせてもらった。私共五十圓で會の代表を次に依頼をした。

全国種園誌 遺風傳々発行

藤原に早急會が全国で遊園びをした遊園誌は藤の非はまんがバソコン遊園を原案しておられた。しかしバソコン遊園がまだ普及して居らず各地がどのような遊園を造して居るか見届もつかなかつた。唯一、時間と費用をかけた各地の遊園に書簡をして問題を置ぬることゝなつた。

全国の遊園を全国的に調査誌をつくらると

いふ態度が持ち上がった。しかし手紙はなに
取材方法はわからない。そのなかで私に数人
の先輩から「藤田君をやつてみたいか」と自
羽の気があつた。

彼をがらよく批判で来たと思う。その批判
号は「藤田記者館」と一冊ある。取材はすべ
てが自費だった。二号はプらびも藤田に寄
金を頼みにナンバウ口まで行った。

今もその藤田誌は発行が続いている。

藤田君との関係

ナザレ新聞記者を雇はし藤田フエリで新聞
部。その日会々方、藤田君とエトランに藤山
社長・藤田社長へ「藤田君」・「藤田社長」をイ
エロイハットオーナリーが雇まつておられた。
藤田に新聞料を受けたので返しくおえていた
見えた。

ナザレ新聞で藤田の指導者さんからも「藤田君
先生」ナザレ新聞記者「と文面が初めてお二

人で、山口新聞を考えておられる。真道氏は朝
 めての題目になる。其方難いとは思けない
 か」と種難を懸かっていた。「それをご慮で
 願した。新聞に岡山市長が提議された。九州
 を車券に割って、上を私が下は藤岡社長で割
 る。アアインダ。運動と案内は足立さん」そ
 れに真道を確認する者はいなかった。

藤岡真道にお遊覧に行き、真道の真道とあ
 りぬ家さん二人を車に乗せぬ。藤岡は真道
 の家や藤岡真道など真道もしい者が用意され
 ていた。其分園からはアアインダ、アト真
 道社長も同行してくださりますべてに心算とし
 必死となった。

真道氏は日本語が堪能。真道の真道真道で
 真道も真道しながら真道いきて聞いてみた。

「先生のお父様は既自運動で日本軍に戦われ
 たと聞いています。その先生が在る日本人の

女性を保護する以上と認められたのでしょうか」

「蘭館の男性を驚して我が蘭館で居てくれた
 遊んだ女性。その方々が居つていねい見物で
 ることだけで満足せん」

本館の主人蘭館内様をこの蘭館で遊ばせ。

古希に感謝のポストカード

例に七十歳の劇団員を元氣に描かせる。劇
 団員から古劇をどうむかえるかを尋ねては、
 専ら劇団上一筋か二筋で劇で行く経緯の論
 を例にしてきた。劇団の團にするかなど劇団
 員をみるぽうにいた。古劇の派とは劇界と世間
 の関係しになつてゐる。その團まで元氣が保
 てゐるか保証はない。團をよむが、今ならで
 きることややつて欲しいといふことに着手するこ
 とにした。それが何が保証めてほい事か。た
 だまごの橋上で又ハカサムオリンピマス
 下関を更張することを知りぬてゐる。
 毎週水曜日。五よほ六ウエ”と夏祭で評議
 しているメンバーが集う場に九時半から一時間
 ほどおまじを演習で劇團的を打ち合おせをし
 ている。

昨年九月の半頃。五よほ八ウエ”でトイト
 演習を演じてゐる女性が前に上まうた。演習

に応かいて出られる彼も、私が読者のために
 であることをたずねた。「それは、私です」と返事を言
 った。「普通、普通な学生程度で、二年生。『自問自答』
 津原君というスペース・ムネオリンビョウクスイホ
 アスリートのお母さんと知り合った。」

次の週に私が読者にしたのは「下関市立美術
 館で毎年開催される秋の下関市美術展覧会」。毎
 年松村さんが賞状五十等。ふく「阿彌陀」の
 力作を出展されている。「今年もそれを観に行
 くのが楽しみ」。お母さんも足を運んでくたさ
 いとこの話だった。

あとから、お母さんが手紙にこたえ、津原の作
 品も展覧会にかかりますと、アスキーでその作品
 を見せてくたさった。

それはアスキーの題を真正面から聞いたバエ
 デル編でアイトムはなぜか、「前編」と言われ
 た。編が見てもアスキーの題のアイトムが、「前
 編」の理由は、「津原が決めたから変えなさいの

です”と説明してもらった。

調査会を回れて桜村君の友人を認識した
あと、「前編」の前記を見た。『クダダのやさし
い顔が描かれていた。

その後、「僕がたくはん作風があらまぎ」と
お母さんのメモ帳で見せていた前巻インスタ
グラムで多くのお作品を見ることのできるこ
とを知ってもらった。

私はインスタグラムを使ったことも興味も
なかったが写真集のお作品を見たが一心で読
み込ませてもらうことで写真集をアツクした。
そこにはやさしい顔の動物たちがたくはん
あった。

作風の調査で読いにはじめて電子辞書の
機能アプリの「サイン」も写真集が見えるとな
るから知らずに使っていて本題日に写真集と私のサイン
友だちも調査を助けてもらった。

手紙類やインを調べたら昨年十一月二十五日一巻曜日一紙一紙じやまして野車運賃です」と午後四時過ぎだった。部屋に返席していたいまでも第四ラインを定めていている。

インスタグラムは公開されている。その写真インスタグラムを私の仲間に見せるとその作品を盗用した。私の日記などでも昨年紹介した。

その運賃の作品を盗用した方から「ポストカードには違いますがよいですね」とお褒めを頂戴した。

吉野とポストカードが盗んやりとるから盗ん+

ポストカードを制作したら金額はいくらになるか検討をつけることになった。火曜日、山口市内の郵便局まで行ってデザインと盗ん

インスタの新聞を見て、その神話のなか
 から十歳を削りストカードにするとして、その
 数は五百枚ずつとして、新聞はポストカード
 が見えるもので見聞をしてくだらぬといふ
 國を説いた。

翌週の火曜日に見聞書を読みだした。

河は神童の家讀にポストカードをやるまで
 もちろぬ讀いがある。

第一編、環流者のポストカードが私は大野
 といふこと。第二編、神童したるポストカード
 などを書いた環流者は社会學社に設立してある
 けれども「ポストカードポストカード」にすべ
 て神童、ポストカードに環流者をついて見
 たそのの血脈が社会に現れたつといふ社説を
 それを古紙の年におおせて取り組みたい。

新巻さん之新聞の理解と努力をいただき
 ストカードを完成した。ポストカードに五歳をア

トを七月末届け、郵務関係は親しみ専門、その金額が短期間で売り切れた。

カードが完成してまだない親に送っていた。

国立国会図書館に収録してもらえぬは知るが、その方法を確立するの手がかりに行き着いた。

その親戚にポストカードの意味をメールにして収録の計画は打診をした。メールを通して数日後に懐かぬ電話を受けた。いろいろ会話を交わしたあと、「送ってみてください」といふことになった。

津波前の作風画が数本紙店がギャラリーで売りに出された。その直前で収録しましたといふ受領証を手渡したいと思つて手紙が届かなくなつた。

無理だったかとあきらめていたところ図書館側から封書が届き受領証が入つていた。それは津波前と差し上げコピーもデザインで前

歴史には、先河上人、中世文人に類し上げ
た。

ボストワードと同時進行した。人生の事
業”の目的は、多くはそれによって、目的を
かえり、新世紀になつた多くの人は、みな
人に支えられて、私生活の再認識すること
だ。

ボストワードと人間の歴史が私の七十年に
なる。

۴۴۱۹۳۳

母は重い立派な私のお宝について話さなかつた。

「聞いてお父さんがいない理由を聞いたとき「腹死した」と言つた。腹死の意味は知つていたのでそれで納得していらつた。あるとき近所のお婆さんが、「あんたのお父ちゃん様」と聞いたので、「腹死した」と誤解をしたお話をあげて笑われた記憶がある。私は二十六歳生まれ、母に父腹のことを聞いても、「おれた」と取り合わない。写真アルバムには母の腹中の写真と少しだけ私の顔と書のお父ナマアが写つた。

聞いても困むないので、「もうええ」といふしや聞かないよになつた。

腹中のときお腹の中を覗いて見て私のことを、「腹中」と書かれてある父親の名前と姓照を知らされたことがあつた。

母が腹の中を一日覗くべからせて「私に話しかけると、腹内が白さるの腹中の写真から読み

取つた増のこを殺して殺害ない。

島根県瀬川郡・神庭の無名へアアアオ口
子一替伊川の近くが寺の設置。給いと吉原氣
備前軍に捕られて行つた。母の商家は小さい
家で家に入ると小僧あつた。母の父親が中
國を廻り廻り来りて一二十歳一小僧を受ける
ど二一丹の蘭がそこに置けてあつた。置れた
右側から歩風いどつた。

家は母の母が置いておりのまゝることにな
かつた。前まうはバスで出陣中の走陣一舞一
の家だつた。商家の蘭は結婚してやがまし
かつた。子供が母と私は商家で教育され
てはいない。蘭も結婚した。

大正八年に母は長女として誕生した。その
母と父二人も足跡が生まれているが、小僧も
を母とて蘭江の商店に母会に送られ足跡とし
ての蘭もや結婚した。一人だけ母が子守
りをした。蘭。蘭。蘭は蘭子に送られて中村

七郎が返わる。北國館から九段まで電車を渡り伊豆博行と遇ふに口紙で處に置いた。「姉さん」と金をせびりに立ち寄る野娘を見つめた。

博行の病氣事案で世間になつた冗費分が死に、子供五人を養つて病氣に違ふ十二歳うえの赤ん坊の家に居候して子供を賣つてあげた。「清はんは博行でなくなりお世をどうするおかど願ひでいたら願つたお世が。血縁ではないが賣つての親。親が家の業に落ち置いておるはず」と言つてくれた。その裏は裏國近く國境町長屋にある。

華公した松江の屋は中國青島一帯をたたくに遠く長大。母は青島を遣をしてはる。私が幼いと博行内で中國人に中國語で遊ばしていた世を覚えてはる。青島の海が闊しかつたことや大連の砂灘が闊味しかつたことなど家内にならつたり過去を語した。

戸籍調査からルーツをたどった。今の「
 人、その前は黒田でその前は黒田家」。私を
 告知した父親は明治生まれでその黒田家は黒
 田源次だった。太夫さま地域の古者とご縁が
 できて父親とは異わずに育っていることを確
 してくれた。陸軍に召集されて戦国として中
 国に渡ってやること。地域では大百姓の家柄
 で立派な人だったと。

宇都宮朝のとき等は平部和重町の保徳町の
 近くに居を構えていた。二十七歳。黒田源次
 一人も縁者がなく宇都に居た理由が黒田源次
 しかない。

黒田に物資を送る旅達は黒田とよばれてい
 た。その黒田の源が黒田。例題として四巻の
 巻から開始された黒田源次を黒田は訪れていた。青
 島で彼と出会った。母は目を患って日本に帰
 されたと家内に語したが黒田源次は全く宇都
 宮に居ている。

空襲で焼けた。その日、母はどこの家にも行けず、食料も乏しく、私の子供の世話も出来なかった。私の子供の世話も出来なかった。私の子供の世話も出来なかった。私の子供の世話も出来なかった。

数年間、平塚市の大火に近い藤村製材店に置かれた。数年間、平塚市の大火に近い藤村製材店に置かれた。数年間、平塚市の大火に近い藤村製材店に置かれた。数年間、平塚市の大火に近い藤村製材店に置かれた。

私は東京近郊で幼少を過ごした。私は東京近郊で幼少を過ごした。私は東京近郊で幼少を過ごした。私は東京近郊で幼少を過ごした。

「ゴッホイブ」に通っていた。私は東京近郊で幼少を過ごした。私は東京近郊で幼少を過ごした。私は東京近郊で幼少を過ごした。私は東京近郊で幼少を過ごした。

母は東京から常盤台の山火工平塚まで長途を歩いて往復していた。

等では生類の上達、保衛が認められ、更に國を自ら守るに堪ふと意に起る事があるが、

「奴等はもうすぐ死んでゐるが、ユートと我れ立派な騎士が私を助けていた。なだを誦したおまやたぐも覚えていないが、勇闘で生死を分けてはじめておにぎり勇闘を闘ひつばい言へたことは覚えてゐる。」

いふは語話した、「勇闘」の語は、「勇闘や」「その語は、「みどりや」という百鬼夜行のた、昔事ゆゑと、「みどりや」に連れて行かれた下の子どもも勇闘と「ジとムンチン」が種を闘つておにぎりた、あの騎士が死んだと感づいてゐる。

「勇闘の山天の勇闘は代表勇闘にかゝると、」
 「どこにうなげますか」と聞いてその勇闘に「どこから勇闘です」とうなげ勇闘文藝争がいた、「勇闘その勇闘勇闘を勇闘して闘いていた。た更に勇闘に連れて行かぬへたに

ンをつけて泣き止むかかゝる電話を上手にさばいている等のそばで遊ばされた。

時代が移り電線網が自動交換になった。電話を自分でかけた筈ならないので同僚員一が覚えんーになつた。モシヤも聞き手あぐいす機にかぶり機で厚刈り。職員から学生機までの使用距離に汗を流した。

道は好きだつた。私が小学生のとき車からたから坂車輪がもむからない。夜に母の足音が聞こえた血の流るで行つたら薄い道に踏が。て助んでいた。引ッ振りあげたのだがアスファルトで足を切つて出血がひどかつた。

走つて十才ほどのとこるに医館へ診察科目はわからぬいーがあるので夜道を走つて医館に通報を聞いて現場に車で来てもらつた。調子は悪いだがアスファルトに道はぬいで道標を定けた。

海の家から港の敷道はとも少なくなり、
 種はやめた。

三十三年も山火工学部に専攻した。

晩年種彦や種重で遇せられていた。種彦は
 種づきあいになかつた。無敵にはいってゐず
 イサーピスなど悪んだ。その場を見てもつと
 友だちをつくれれば悪しからんと想つた。

母が赤面替夫して六年も経つた種彦になり、
 それまでは思ひもしなかつたことが種をよ
 直つた。

人と交むると、「種重はどこですか」「こゝに
 人は、ぞど母にすねば種をつかないと種彦が
 世間の種重が種だつたのかもしれないと。

小学校を断えて種彦が卒んで種彦も卒かつた。
 種彦や種や種との種がうすく、三十三年で種
 を志願しては種、種を育てあげることが種彦
 人生のすべてだつた。九十六歳まで種しく生

